

園だより

第 13 号 2019年 3月15日



ばんけい幼稚園

不安 < 期待

園長 馬見 雅子

あっという間の3学期ですが、この3学期は体も心も充実して成長を感じる時です。

3学期は、雪と関わり雪と遊ぶ時期です。この雪は、小さな雪玉から大きななまくらや滑り台など様々に姿を変え、子どもたちのイメージを広げ、友達との関わり場の場となります。また、体にも心にも適度な困難を与えてくれます。雪の中で体を動かすことは負荷がかかります。「さむい」「つめたい」「つかれた」そんな心の負荷もあります。しかし、その先に楽しさや“できた”という成功体験があると、子どもたちは困難を乗り越え楽しさを広げていきます。こうして体も心も一回り逞しくなることが感じられます。

また入学・進級への思いも、この3学期の成長につながっているようです。あか組とみどり組の生活が始まった中で、あか組の子がみどり組の製作を見て、「難しそうだからみどり組になるのやだな」とつぶやいたそう。担任が「あれ？リレー楽しみにしてなかったっけ」というと「やっぱりみどり組になる！」とのこと。他にもみどり組・あお組が使っている重い椅子を使う事を楽しみにしている子もいます。みどり組の子もあお組のスキーや合宿に不安が入り混じりながらも、進級することを期待しています。子どもたちは、大きくなることをこんなにも喜んでいる、ということに気付かされます。異年齢での生活の中でその姿を間近に見ていることで期待や安心に繋がっていることが考えられますが、子どもには本来、大きくなりたいという気持ちが備わっているようにも感じます。

先日、あお組の子どもたちがお礼と卒園の挨拶に盤溪小学校に行った時、校舎に入れてもらい、歓迎の鍵盤ハーモニカの演奏と応援の言葉をもらいました。緊張した面持ちで校舎を見渡し、真剣に一年生や先生の言葉に耳を傾けていました。その帰り道、「僕〇〇小学校」「私〇〇小学校」と話をする姿が見られていました。その声と表情からは大きな期待が感じられました。入学に際しては、新しい事ばかりで、不安が大きいと思いますが、子どもが持っている大きくなりたいという気持ちを支え、不安を期待に繋げる役目を果たしていきたいものです。

この1年、一人一人の子どもたちがそれぞれ大きく成長しました。新しい1年も、たくさんの期待を持って迎えて欲しいと願っています。保護者の皆様には、多くのご協力をいただき、園の教育を支えていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

